

令和2年度第1回印西市地域公共交通会議
本塾第二小学校周辺地域対策分科会 会議録

開催日時 令和2年8月20日(木) 午後2時10分から
開催場所 印西市役所 附属棟2階 23、24、25会議室
出席者 石川浩久委員、織原拯委員、浦川真一委員、石井隆委員、和田賢太郎委員、
岩崎員幸委員、佐藤信之委員、川嶋一郎委員、富澤実委員
事務局 交通政策課 本多課長、小林係長、鈴木係長、成田主査、阿部主査
支援業務受託者 株式会社 ライテック
傍聴者 0名

次 第

- 1 開会
- 2 課長挨拶
- 3 議題
 - (1) 印西市地域公共交通計画の内容について(検討資料)
 - (2) スワン号の実証運行について
 - (3) その他
- 4 閉会

会議録(要約)

1 開会

(事務局) ただいまから、令和2年度第1回本埜第二小学校周辺地域対策分科会を始めさせていただきます。

2 出欠の報告

(事務局) 本日の出席委員は、9名全員でございます。

(事務局) また、本日の会議につきましては、印西市地域公共交通会議設置要綱第7条第6項の規定に基づき、公開とさせていただきます。本日の会議においては、傍聴の申し出はありませんでした。

3 課長挨拶

(事務局) 続きまして、交通政策課課長の挨拶でございます。

【 課 長 挨拶 】

4 議題

(1) 印西市地域公共交通計画の内容について

(事務局) それでは、議題(1)「印西市地域公共交通計画の内容について」検討資料を基に、説明させていただきます。

【検討資料 事務局説明】

(事務局) 現段階として、計画策定の方向性として、ご意見をいただければと思います。また、本分科会は、本埜第二小学校周辺地域の分科会になりますので、スワン号のあり方について、計画に対してどのようにしていくかについて意見をいただければと思います。

(事務局) スワン号の運行状況につきまして説明させていただきます。

【資料 事務局説明】

(事務局) スワン号の利用状況を踏まえまして、ご意見をいただければと思います。

(委員) 皆様御存じの方もいらっしゃると思いますが、地区の方のアンケート結果に基づいて、企画されたものでございます。アンケートの内容につきましては、公共交通がないため、何らかの形で市のほうにお願いできないかというのが大きな内容だったと思います。その内容の中でも、通勤に使いたい、駅まで行きたいなど踏み込んだ内容が多く、可能な限りにそれに合わせて経路や運行時間を設定させていただいた経緯がございます。ただ

多い利用が見込める路線ではございません。アンケートでは「今は使わないけど、後々自分が車を運転しなくなった時に使いたい。」などの意見もございました。定期券や回数券を設定したので、地域の方にご協力をいただきたい。もちろん市にも援助をいただいているのですが、乗って残そうという観点から、定期券とか購入していただいて、ある程度使っていただけないだろうかの考えから、運行開始させていただいた経緯もございます。残念ながら運行そのものを御存じでない方もいらっしゃると思います。周知活動は、行政にいろいろとお願いをして参りました。ただ、今日に至るまで周知が広がっていない。決して行政がやっていないわけではなく、やっていただいているが、広まっていない状況でございます。私共、行政を含めて運行事業者として、どうしたら使っていただけるだろうとアンケートをしたところ、回答が多くない結果になりました。まず、皆様に乗っていただきたいという所。乗っていただいた上で、ここをこうして欲しいなどの意見がないと、私共も打つ手がないのが本音でございます。もちろん地域の足として残さなければいけないということがあります。こういった状況の中で、行政に頼りっぱなしというのもよくないと思っています。地域の皆様のご協力がないと、前に進まないどころか、運行が継続できないことになりかねません。運行を続けていくためにも、運行形態だとか料金形態だとか、もちろんこちらのほうで300円と設定させていただいている部分がありますが、これくらいの値段が良いのではないか、もっと他に方法がないのかなど、いろいろ意見がいただきたいと思います。是非、ご意見のほうをよろしく願います。

(委員) 利用状況は低調ですが、最大でどれだけの需要があるのかが気になります。無料にした場合、何人利用するか。告知をして、需要を掘り起こして行って、サービスを改善して行って、最大どれだけ見込めるのか。残すか残さないか見極めのポイントではないかという気がします。

(委員) ただ、明日から無料にしますというわけにはいかない。無料にするにあたって、いろいろと考えなければいけないこともあります。もう一つ思う所は、区域乗合の事業免許を持っているわけですから、区域内の需要に応じて、タクシーでコンパクトに運行するという方法があります。例えば、常時デマンドで運行したいというご意見があるならば、検討の余地はあります。ただ、地域の皆様のご意見があがってこないため、非常に困っているところでもあります。悪いなら悪いではっきり言っていただければ、直しようがあります。認知がないというのを含めて、困った問題だと思っています。

(委員) そもそもニーズがない。需要を見極めることが必要だという気がします。そのため何をやっても効果が出ない気がします。

(委員) 家が点在している地域を運行しているため、全てをカバーするとジグザグ走行の運行になってしまう。また、定時定路線で運行していくのが正しいのか。そうでないとしたら、先程お話ししたタクシーを使って運行していくことを模索しなければいけないのではな

いかと思う所です。ただ申し訳ないが、アンケートの盛り上がりはどこに行ったのか。こちらのほうでいろいろと試行錯誤しても、それが地域のニーズに合っているのかどうか分からない部分がある。

(事務局) 住民の方の意見として何かありますか。

(委員) アンケートに回答した人は、今は運転ができるので何とかなる。確かに、車が使えなくなった時に困るとの回答が多かったと思います。

(委員) 今はいらないけど、将来はいる。もし継続するのであれば、今乗らなくても定期券、回数券を買っていただいて、お金を落として欲しい。乗っていなくても、運賃収入があれば、私共は、行政に収入はありますと報告ができます。今乗っていませんが、住民の皆さんが先を考えてお金を使っていただいているという説明ができます。大変申し訳ございませんが、私共、皆さんの先のために今できることは限られています。皆さんご自身のために、この交通手段を残したいとおっしゃるのであれば、乗って残すことを考えて欲しい。

(委員) 交通が便利な地域に住んでいなかったため、足は自分で確保する生活をしてきました。スワン号の開始の際に、スワン号について全然知らなかった。今のルートで、私が知っている範囲の人たちでは、朝に安食駅に行くことはない感じがします。行き先や時間的なことの見直しが必要だと思います。それと実際に必要としている人たちは、デマンドの使い方がわからない。目的地に行きましたが、帰りはどうすればいいかなどの不安があると思います。そのため、皆さんの不安材料を取り除いていくことも必要ではないかと思えます。前回の会議のアンケートに一言書かせてもらいましたが、印西市内にある公共交通に対して、100円で行くところもあれば、200円で行くところもある。スワン号は300円である。農村地帯なため、そんなに利用する人は多いことはないですが、その金額が変わったらもう少し利用する人も出てくると思います。ルートを含め、時間も含め、金額も含め、それらのことについて見直しが必要ではないかと思えます。

(事務局) スワン号に限らず市が関わっている公共交通の料金が不均一の問題についてご指摘いただきました。住んでいるところで金額が違うのはおかしいのではないかということです。

(委員) 実際、成田市でデマンドタクシーが運行されています。1回500円になります。成田市のタクシーの営業は、駅周辺から富里の地域までです。旧大栄町地域は、タクシーがまったく走っていません。都市交通の成田営業所では、デマンドを運行していますが、タクシー事業では、市内から乗車して市外へ行かれる方が多いです。デマンドタクシーは、成田市内に営業所があるタクシー会社は何社も集まって共同運行しています。タクシーを使ってデマンド運行するというのも一つの方法かもしれません。これは私共が知っている話であって、利用者が知らない話であります。本埜地域の皆様に向けて、行政と

私共が共同で、こういうことができますというような説明の機会があった場合、皆様は聞いていただけるでしょうか。成田市ではこういうことをやっていて、本埜地域に適用したいのですが、いかがでございますかというような説明する機会を設けさせていただくことがあれば、皆様が興味を持っていただけるかどうか。市民代表の委員にお聞きしたい。

(委員) 興味はあると思います。ただ、説明会を開くとしますと、参加する人は車に乗れる人に限られてしまうと思います。そのご家族の方でも、そのタクシーに乗りたいと思う人は、会議に行かないと思います。本当の意見を集めるには、どうしたら吸い上げられるか。プレーグ本埜などに行って、説明会をしたということを知ったことがあったが、そういう人たちに説明会をしたほうが良いのではないかと思います。

(委員) プレーグ本埜の利用者はあまり多くない。今の運行状況の利用者からすれば、かなり多くを占めていますが、本来想定している運行本数の中でも、プレーグ本埜は想定していない。地区全体として、公共交通機関がなく足は自分で確保するという問題があると思います。ちなみに、旧本埜地区からのタクシーのご注文はそんなに多くはありません。アンケートでありましたが、電話して呼ぶということが利用しない理由にあります。そのため、定時定路線で運行していますが、それでも出てくる話は路線バスをそもそも乗ったことがないという方が多く、利用の方法がわからないということです。やりづらい状況になっています。今後継続する上で、地域の方が、今はいいけど3年後に利用したいと言っていますが、その3年後のために皆さん耳を傾けてくれるのでしょうか。今はいらないと言っている方は、確かに今はいらないと思います。今はいらないと言っている方のご家族に、今いる人がいると思います。今いる人がどれだけいるかわかりませんが、その人たちの声を聴いてみたい。もちろん今いらないと言っている方が、3年後運転しなくなった時に、こういうのを使いたいと言った時に、どういうあり方がいいのかという意見も聞きたいので、是非、そこは先のことを考えていただけたらと思います。

(委員) デマンドタクシーというのは、必要とする人の家まで行けるのでしょうか。

(委員) はい、行けます。必要とされる人の玄関先まで行きますが、運行の認可を受けている範囲内で行くことができます。例えば、成田市は成田市内の運行をしている。運輸局との話し合いになるのですが、例えば、安食駅まで認めましょう、印西市内でもバスと競合するところに行かないようするとかの線引きは必要になってきますが、少なくとも旧本埜村とプラスアルファのエリアには、運行をさせていただくことは法律上可能でございます。

(委員) それを視野に入れていかないということですか。

(委員) そうです。今、私がお話をしたことは、地域の方はご存じないと思います。そのことを

行政の方と一緒に説明をさせていただきたいと思っています。

(事務局) 計画の中でも課題が浮き彫りになったということです。1度改正してもそこまで利用されなかったという現状を踏まえると、次の段階に行くことになると思います。このままで良いというわけではありません。新たなやり方があると思いますので、その一案として提示していただいたと思います。市の考えとしては、直ぐに廃止ということは考えていません。どうにかして空白地帯の困っている方々を救うような形を取りたいと考えています。説明会では、確かに足がなくて行きづらいということはあると思いますが、広報のチラシとかで説明するとか、他のやり方もあると思いますので、行政でできることを検討していきたいと思います。計画におけるスワン号の方向性としては、今のままでは廃止の方向になってしまうので、そうならないために何か抜本的な対策を考えていくことだと思っています。それが計画において、5年なのか、3年なのか、1年なのか、細かいところは調整が必要だと思っています。

(委員) 公民館に皆さんを集めていただいて話し合いをしないと、浸透しないと思います。分かりづらいところもあるので、1回集まって説明会などの対話できるような機会を作ったほうが、具体的になると思います。実際困っている方もいますので。

(委員) 一方通行にならないようにしたいと思います。こういうことを考えているのだけど、皆さんの意見を聞かせてください。そこで話を揉ませていただいて、提案していきたい。2回、3回やったほうが、地域の方も興味を引くと思いますし、時間を掛けて、やっていきたいと思っています。

(事務局) 高齢者の方に啓発運動をする予定でありましたが、このような社会状況になってしまったため、乗ってくださいという状況になかなかできない。そのため、説明が出来ない状況になっています。この社会状況が変われば、活動もしていけると思っています。今までも高齢者クラブへお願い文であったり、高齢者クラブが同時に啓発をしてくれたり、広報に掲載しても、地域の周知率は40%にしかかかっていない状況です。これで廃止するというのではなくて、今後も行政として啓発運動を引き続きやっていきたいと考えています。そのような中で、こうした方が良いのではないかとことを計画に示していければと思っています。

(事務局) モビリティマネジメントをやらないと、なかなか乗ってくれるようにならないということだと思っています。特に車社会の地域が、公共交通へ転換することは難しいと思います。全国では力を入れている市町村があるのですが、特に高齢者にバスの乗り方講座、デマンドの使い方講座をやられているところがありますので、そのようなことも入れていかないと乗ってはもらえないということだと思っています。

(委員) スワン号は、ほとんどうまくいっていないというのが現状で、そのため、発想の転換が

必要になってくるのではないかと考えています。スワン号は交通需要自体が不明なので、マネジメントをどのようにしていいかわからないということもある。試乗会をして反応をみるだとか、ピンポイントで高齢者のためにスワン号の案内と無料券を入れて配布するとか市役所が財政措置を講じつつ、埋もれたニーズを把握することが必要な気がします。どんな新しいアイデアでサービスを構築しても、ニーズを把握しないと、結局は同じ結果になってしまう。市として、本埜地区の公共交通のニーズがどれだけあるのか把握する一つの事業が必要な気がします。

(事務局) そもそもニーズがどれくらいあるかで展開している事業が変わるといえるのであれば、それを早急にするという案ですか。

(委員) アンケートでは取り上げられなかった、タクシー券だとか、無料券だとか、公共交通を利用する機会も地元にはないだろうから、公共交通に対する反応というのを探してみる。そういう意味で、無料券を配布することだと思います。そこで利用した人に意見を聞いて、先々の事業の内容を検討していく。実際に利用している人の意見を聞く機会が必要なんじゃないかと気がしました。

(事務局) 先に公共交通計画の内容について、固めてもらえばと思います。様々な意見が出ました。スワン号については、現状の運行を変えて、いろいろな施策を打ち、空白地帯をなくすという計画を記載することによってよろしいでしょうか。

【特に意見なし】

(事務局) それでは、本埜第二小学校周辺地域対策分科会での承認をいただきました。

(2) スワン号の実証運行について

(事務局) つづきまして、協議事項(2)「スワン号の実証運行について」ご説明いたします。

【事務局説明】

(事務局) 本日につきましては、来年度もスワン号を継続させることについて確認を取らせていただければと思います。来年度も継続でよろしいでしょうか。

【異議なしの声あり】

(事務局) 継続の方向で進めさせていただきます。

5 閉会

(事務局) それでは、以上をもちまして「令和2年度第1回本埜第二小学校周辺地域対策分科会」

を終了いたします。ありがとうございました。